

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成30年8月30日

【事業年度】 第36期(自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)

【会社名】 株式会社コスモス薬品

【英訳名】 COSMOS Pharmaceutical Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 横山 英昭

【本店の所在の場所】 福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目10番1号
第一福岡ビルS館4階

【電話番号】 092-433-0660(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画部長 柴田 太

【最寄りの連絡場所】 福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目10番1号
第一福岡ビルS館4階

【電話番号】 092-433-0660(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画部長 柴田 太

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第32期	第33期	第34期	第35期	第36期
決算年月	平成26年 5月	平成27年 5月	平成28年 5月	平成29年 5月	平成30年 5月
売上高 (百万円)	371,825	408,466	447,273	502,732	557,999
経常利益 (百万円)	18,193	19,028	20,691	24,591	25,255
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	10,600	11,694	12,435	18,215	17,633
包括利益 (百万円)	10,600	11,702	12,361	18,260	17,617
純資産額 (百万円)	54,399	65,055	76,179	93,053	108,888
総資産額 (百万円)	142,700	168,918	202,595	225,691	250,609
1株当たり純資産額 (円)	2,747.50	3,285.70	3,847.52	4,699.76	5,499.55
1株当たり当期純利益 (円)	535.41	590.63	628.05	919.99	890.59
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.1	38.5	37.6	41.2	43.4
自己資本利益率 (%)	21.3	19.6	17.6	21.5	17.5
株価収益率 (倍)	19.6	28.6	31.7	25.4	26.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	25,962	19,454	30,986	36,938	32,586
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	20,118	29,272	28,550	28,404	30,458
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	452	7,151	6,211	8,088	8,188
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	21,302	18,635	27,282	27,728	21,668
従業員数 (名)	2,323	2,706	3,016	3,533	3,849
(外、平均臨時雇用者数)	(7,762)	(8,820)	(9,586)	(10,910)	(12,199)

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
3 従業員数は就業人員であり、また従業員数の()書は外数で、臨時雇用者の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第32期	第33期	第34期	第35期	第36期
決算年月	平成26年 5月	平成27年 5月	平成28年 5月	平成29年 5月	平成30年 5月
売上高 (百万円)	371,801	408,462	447,271	502,730	557,997
経常利益 (百万円)	18,074	19,388	20,666	24,559	25,237
当期純利益 (百万円)	10,531	12,069	12,419	18,194	17,622
資本金 (百万円)	4,178	4,178	4,178	4,178	4,178
発行済株式総数 (株)	20,000,400	20,000,400	20,000,400	20,000,400	20,000,400
純資産額 (百万円)	53,791	64,821	75,990	92,797	108,638
総資産額 (百万円)	141,959	168,576	202,218	225,306	250,213
1株当たり純資産額 (円)	2,716.78	3,273.87	3,837.97	4,686.83	5,486.90
1株当たり配当額 (円)	55.00	60.00	65.00	80.00	90.00
(内、1株当たり中間配当額) (円)	(25.00)	(27.50)	(30.00)	(35.00)	(45.00)
1株当たり当期純利益 (円)	531.89	609.59	627.27	918.95	890.05
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	37.9	38.5	37.6	41.2	43.4
自己資本利益率 (%)	21.5	20.4	17.6	21.6	17.5
株価収益率 (倍)	19.7	27.7	31.7	25.4	26.4
配当性向 (%)	10.3	9.8	10.4	8.7	10.1
従業員数 (名)	2,318	2,700	3,009	3,526	3,841
(外、平均臨時雇用者数)	(7,712)	(8,769)	(9,526)	(10,850)	(12,142)

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
3 従業員数は就業人員であり、また従業員数の()書は外数で、臨時雇用者の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

2 【沿革】

昭和48年2月に、現代表取締役の宇野正晃が、医薬品の販売を目的として宇野回天堂薬局を宮崎県延岡市に創業したことが当社の事業の出発点となります。その後、昭和58年12月にドラッグストア事業を展開する有限会社コスモス薬品を設立いたしました。設立以後の沿革は、次のとおりであります。

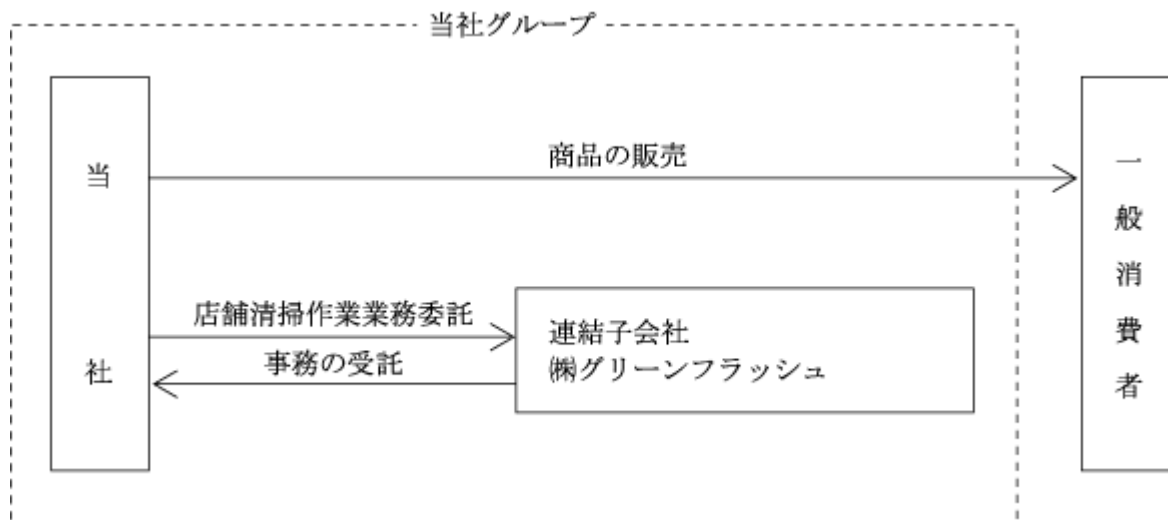
年月	概要
昭和58年12月	医薬品・化粧品・雑貨等の販売を目的として、宮崎県延岡市に有限会社コスモス薬品を設立、同市にコスモス薬品岡富店（売場面積66㎡）を開店
昭和62年11月	当社として初の郊外型店舗として宮崎県延岡市に平原店（売場面積165㎡）を開店
平成2年2月	調剤薬局の運営を行うことを目的として、当社代表取締役宇野正晃が有限会社なの花薬局を設立
平成3年4月	有限会社コスモス薬品を株式会社コスモス薬品に組織変更
平成5年1月	経営基盤強化の目的で、株式会社回天堂薬局及び有限会社なの花薬局を吸収合併
平成5年12月	当社として初の本格的なドラッグストア店舗となる浮之城店（宮崎県宮崎市・売場面積600㎡）を開店し、多店舗展開を開始
平成11年4月	当社として初の売場面積1,000㎡型店舗となる日向店（宮崎県日向市）を開店
平成11年12月	医薬品販売子会社として、当社100%出資の株式会社ドラッグコスモス(現 株式会社コスモス・コーポレーション、現連結子会社、資本金1,000万円)を設立
平成12年4月	宮崎県宮崎市に本社を移転し、本部機能を統合
平成15年5月	当社として初の売場面積2,000㎡型店舗となる人吉店（熊本県人吉市）を開店
平成16年3月	九州地区外への初の出店となる大内店（山口県山口市）を開店
平成16年4月	店舗メンテナンスを行う障害者雇用特例子会社として、当社100%出資の株式会社グリーンフラッシュ（現連結子会社、資本金1,000万円）を設立
平成16年11月	東京証券取引所マザーズ市場上場
平成17年4月	本社機能を福岡市博多区に移転
平成17年9月	本店を福岡市博多区に移転
平成17年11月	四国地区への初の出店となる竹原店（愛媛県松山市）を開店
平成18年5月	東京証券取引所市場第一部に上場
平成18年11月	福岡県八女郡広川町に、初の自社所有物流センターとなる広川センター（20,000㎡）を開設し、北部九州への配送体制を強化
平成22年5月	関西地区への初の出店となる東二見店（兵庫県明石市）を開店
平成27年11月	中部地区への初の出店となる東日野店（三重県四日市市）を開店

3 【事業の内容】

当社グループは、「コスモス薬品の店があることで、その地域の日常の暮らしが豊かになることを目指します」を経営理念とし、医薬品・化粧品・雑貨・一般食品といった日常生活で必ず必要となる消耗品を満載したドラッグストアを展開しております。また、当社グループは平成30年5月末現在、中部・関西・中国・四国・九州地区で912店舗を運営しており、株式会社コスモス薬品（当社）と株式会社グリーンフラッシュ（連結子会社）で構成され、当社および子会社が一体となってドラッグストア事業を営んでおります。

当社グループ内における位置付けにつきましては、株式会社グリーンフラッシュは、当社グループの店舗の総合維持管理業務を行っており、障害者雇用特例子会社として認定を受けております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



当社グループは単一セグメントであるため、下記の商品区分別により記載しております。

商品区分	主要販売品目
医薬品	一般大衆薬・ドリンク剤・オーラルケア商品・介護用品・ビタミン剤・健康食品 ダイエット食品
化粧品	化粧品・男性化粧品・ヘアケア商品・入浴剤
雑貨	ベビー用品・洗剤・防虫剤・芳香剤・バス・トイレ用品・調理用品 園芸用品・カー用品・衣料
一般食品	加工食品・日配食品・調味料・菓子・飲料・酒
その他	たばこ・他

(注) 一般食品に記載しております「日配食品」とは、毎日消費される食品の総称であり、パン、牛乳、豆腐、納豆、卵などです。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社グリーンフラッシュ	福岡市 博多区	10	ビル及び商業施設建物の 総合維持管理 交通誘導警備等の請負	100.0	清掃業務の委託 従業員の出向 事務受託 役員の兼任(3名)

(注) その他、事実上の休眠会社である連結子会社(株式会社コスモス・コーポレーション)があります。

5 【従業員の状況】

当社グループは単一セグメントであるため、当連結会計年度の従業員数を事業部門別に示すと次のとおりであります。

(1) 連結会社の状況

平成30年5月31日現在

事業部門等の名称	従業員数(名)
営業部門	3,719 (11,938)
管理部門	130 (261)
合 計	3,849 (12,199)

(注) 従業員数は就業人員であり、また従業員数の()書は外数で、臨時雇用者の年間平均雇用人員(1日8時間算)であります。

(2) 提出会社の状況

平成30年5月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
3,841 (12,142)	29.1	4.9	4,191,336

事業部門等の名称	従業員数(名)
営業部門	3,711 (11,881)
管理部門	130 (261)
合 計	3,841 (12,142)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、また従業員数の()書は外数で、臨時雇用者の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

2 平均年間給与は賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は、U A ゼンセンコスモス薬品労働組合と称し、ゼンセン同盟の専門店部会を上部団体として平成12年9月24日に結成されました。平成30年5月31日現在、1,964名の組合員を有しております。労使関係は、結成以来円滑に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「コスモス薬品の店があることで、その地域の日常の暮らしが豊かになることを目指します」を経営理念としております。

忙しい現代人にとって、最も大切なのは時間であり、時間の節約こそが消費者最大のニーズと考えます。そこで当社グループは、日常生活で必ず必要となる消耗品を満載したドラッグストアを展開することによって、その地域の生活を便利で豊かなものとし、「地域生活者＝お客様」の更なる満足を追求していくことを経営の基本方針としております。

また、医薬品・化粧品等の専門知識を有したスタッフが、お客様の相談に気軽に応じる「ライトカウンセリング」をはじめ、良い接客、清潔で整理整頓された売場の徹底など、人的なサービス強化に努め、温かくきめ細やかなサービスの提供により顧客満足度の向上を図ってまいります。

(2) 目標とする経営指標

限られた経営資源を最大限に有効活用し、中長期的に総資産経常利益率を維持または向上させることを目標としております。積極的な新規出店を今後も継続して行いながら、少ない投資で最大限の利益を確保できる体制で、更なる飛躍を目指してまいります。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

流通小売業は、比較的大きな商圈を設定して規模の最大化を進めている企業が多い中で、当社では商圈人口1万人をターゲットとした店舗展開を行っております。自社競争を厭わずに自ら商圈を分割し、その小さな商圈内にお住まいの消費者にとって、日々の生活において最も便利な買い物の拠点となる店づくりを進めてまいります。

当社のビジネスモデルは、日常生活の消耗品を主とした商品構成とし、来店頻度と買上点数を同時に追求したものであるため、商圈を小さく設定でき、出店候補地に窮することなく多店舗展開が可能です。今後このビジネスモデルの精度を更に高めながら、消耗品の販売市場において限定商圈における高密度占有率の獲得に力を注いでまいります。

郊外型店出店の基本戦略は、“インクが染み出すように”徐々に出店エリアを拡大することとしております。なぜなら、エリアを完全制圧しながらそのエリアを徐々に広げることで、チェーンストアの強みを最大限に発揮できるからです。一方で、これまで未着手だった都市型店の出店を開始しました。あくまでも主力は郊外型大型店ですが、都市部にも出店することで出店余地が広がり、更なる成長が可能と考えております。

(4) 会社の対処すべき課題

当社グループは、積極的な店舗展開による更なる飛躍を目指しております。しかし、これを可能とするには、店舗運営のマネジメントレベルの向上が不可欠と考えます。これを実現するために、人材教育、マニュアルの整備、コンピュータシステムの充実、この3つを重要課題と認識し組織改革に取り組んでまいります。

チェーンストアは、規模の拡大によって段階的な組織の再構築・情報システムの見直しが必要と考えます。今後も持続的な成長を実現するために、将来にわたってその時点の企業規模よりも常に先を見据えた組織・システムの構築を進めてまいります。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、現実的にリスク要因として発生しないであろうという事項につきましても、投資者に対する積極的な情報開示の観点から記載しております。また、当社グループでは、これらのリスク発生の可能性がある事項につきましては十分に認識した上で、発生の回避あるいは発生後の速やかな対応に努める所存であります。当社株式への投資に関連する全てのリスクを網羅するものではありませんので、ご注意ください。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 法的規制について

「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（以下、「医薬品医療機器等法」という）による規制について

当社グループは、「医薬品医療機器等法」で定義する医薬品等を販売するにあたり、各都道府県の許可、登録、指定、免許または届出を必要としております。今後、当該規制改正の内容によっては当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

出店に関する規制等について

当社グループは、ドラッグストアの多店舗展開を行っておりますが、売場面積が1,000㎡超の店舗を新規出店する場合、または増床により1,000㎡超の店舗となる場合、「大規模小売店舗立地法」（以下、「大店立地法」という）の規定に基づき、当該店舗の周辺地域における生活環境保持のために、都道府県または政令指定都市が主体となって一定の審査が行われます。

当社グループでは、売場面積が1,000㎡を超える新規出店または既存店の増床を積極的に行っていく方針ですが、その場合には、地域住民・自治体との調整を図りながら、地域環境を考慮した店舗等の構造及び運営を図るなど、「大店立地法」を遵守する方針であります。しかしながら、物件の確保や上記審査の進捗状況等によっては、新規出店または増床計画の変更・遅延により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 人材の確保・育成について

店舗運営スタッフの確保・育成について

当社グループにおきましては、積極的な人材採用を進めており、並行して新入社員からマネジメント職まで様々な教育プログラムを実行しております。しかしながら、店舗数の拡大ペースに対応した人材の確保・育成に支障をきたす状況が発生した場合には、出店ペースの減速、顧客サービスの低下等により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

経営幹部・組織の体制について

当社グループの経営は、少数精鋭の経営スタッフで迅速な意思決定を行いながら、次期経営幹部の育成を進めております。しかしながら、代表取締役をはじめ各経営幹部は当社経営に重要な役割を果たしており、業務執行ができない事態となった場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

「医薬品医療機器等法」における有資格者の確保について

当社グループは、医薬品販売業務・調剤業務を行うにあたり、薬剤師または登録販売者（平成21年6月より施行された改正薬事法にて新設された資格制度）の有資格者を従事させることが義務付けられております。そのため、ドラッグストアの店舗展開を進めていく上で、これら有資格者の確保は重要な課題であり、確保の状況によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 敷金及び保証金並びに建設協力金について

当社グループでは、賃貸による出店を基本としております。このため、店舗用物件の契約時に賃貸人に対し敷金、保証金及び建設協力金を差し入れております。また、一部の仕入先に対しては取引保証金を差し入れております。

当連結会計年度末現在において、敷金の残高は10,253百万円（連結総資産に対する割合4.1%）、建設協力金の残高は3,821百万円（連結総資産に対する割合1.5%）、及び差入保証金の残高は2,077百万円（連結総資産に対する割合0.8%）であります。当該敷金は、期間満了等による賃貸借契約解約時に契約に従い返還されることとなっております。また、建設協力金及び差入保証金の一部は、支払家賃と相殺する形で契約期間満了時まで全額回収する契約となっております。

一方、差入保証金のうち商品の取引保証に関する残高は34百万円であり、商取引を停止した時点で返還される契約となっております。

しかしながら、敷金、差入保証金、建設協力金については預託先の経済的破綻等により、その一部または全額が回収できなくなる可能性があります。また、敷金、差入保証金、建設協力金については、契約時に定められた期間満了前に中途解約をした場合は契約条件によって返還されない可能性があります。

(4) 自然災害について

当社グループの展開地域において、地震や台風等の自然災害が発生し、当社グループの店舗及びその他の施設に物理的な損害が生じた場合、並びに取引先や流通ネットワークに影響を及ぼす何らかの事故等が発生した場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において判断したものであります。

(1) 経営成績等の状況の概要

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国の経済は、緩やかな景気回復を示す経済指標が一部で見られるものの、不安定な国際情勢など先行きが不透明な状況が続きました。また、将来に対する不安等で一般消費財の販売は力強さを欠き、消費者の低価格志向はますます強くなっております。

このような状況の中、当社グループは消費者にとって「安く、近く、便利なドラッグストア」を目指して力を注いでまいりました。加えて、「毎日安い（エブリデイ・ロー・プライス）」政策を忠実に実行することで物流や店舗作業の平準化を行い、ローコストオペレーションの更なる推進を図り、これを原資としてディスカウント戦略を一層強化いたしました。よって、売上総利益率は前年同期より低下しましたが、既存店売上高は堅調に推移いたしました。特に、平成29年12月以降、月次の既存店売上高前年比の伸長率が高くなりました。

販売費及び一般管理費につきましては、積極的な人員増強策を実施したことで売上高人件費比率が上昇いたしました。また、電気料金の高騰により、水道光熱費の増加率が店舗数の増加率を上回って推移いたしました。

出店戦略につきましては、自社競合による一時的な収益性の低下を厭わず、次々と新規出店を行いました。同時に、新商圏への店舗網拡大も図ってまいりました。これにより、新規出店につきましては、中部地区に11店舗、関西地区に23店舗、中国地区に19店舗、四国地区に9店舗、九州地区に33店舗の合計95店舗となりました。また、スクラップ&ビルド等により10店舗を閉鎖し、当連結会計年度末の店舗数は912店舗となりました。

なお、当社グループは事業区分が単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

以上の結果、当連結会計年度業績は、連結売上高557,999百万円（前年同期比11.0%増）、連結営業利益22,749百万円（前年同期比2.3%増）、連結経常利益25,255百万円（前年同期比2.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益17,633百万円（前年同期比3.2%減）となりました。

当連結会計年度末の流動資産は、前連結会計年度末に比べて5.9%増加し、78,073百万円となりました。これは主に、商品、未収入金等の増加及び現金及び預金の減少によるものであります。

固定資産は、建物及び構築物、土地、工具、器具及び備品等の有形固定資産の取得等により、前連結会計年度末に比べて13.6%増加し、172,535百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて11.0%増加し、250,609百万円となりました。

当連結会計年度末の流動負債は、前連結会計年度末に比べて10.8%増加し、126,436百万円となりました。これは主に、買掛金、未払費用、未払金、未払法人税等の増加、短期借入金、未払消費税等の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて17.4%減少し、15,283百万円となりました。これは主に、長期借入金、リース債務等の減少によるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて6.8%増加し、141,720百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて17.0%増加し、108,888百万円となりました。これは主に、利益剰余金が15,851百万円増加したこと等によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて6,060百万円減少し、当連結会計年度末には21,668百万円（前年同期比21.9%減）となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は32,586百万円(前年同期比11.8%減)となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益25,167百万円、仕入債務の増加13,326百万円、減価償却費11,885百万円等の増加要因、たな卸資産の増加8,710百万円、法人税等の支払額8,300百万円等の減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は30,458百万円(前年同期比7.2%増)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出29,451百万円、敷金及び保証金の差入による支出870百万円、建設協力金の支払による支出576百万円、敷金及び保証金の回収による収入564百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、支出した資金は8,188百万円(前年同期比1.2%増)となりました。

これは、長期借入金の返済による支出4,486百万円、配当金の支払額1,781百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出1,919百万円によるものであります。

仕入、販売の状況

当社グループは単一セグメントであるため、仕入及び販売の実績は商品区分別により記載しております。

a. 仕入実績

当連結会計年度における商品区分別仕入実績の状況は、次のとおりであります。

区 分	金額(百万円)	前年同期比(%)
医 薬 品	56,227	113.6
化 粧 品	43,832	116.1
雑 貨	75,234	109.8
一 般 食 品	274,604	113.3
そ の 他	6,665	102.2
合 計	456,564	112.8

- (注) 1. 金額は仕入価格によっております。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 販売実績

商品区分別販売実績

当連結会計年度における商品区分別販売実績の状況は、次のとおりであります。

区 分	金額(百万円)	前年同期比(%)
医 薬 品	85,772	111.1
化 粧 品	57,683	110.3
雑 貨	93,566	108.6
一 般 食 品	313,470	112.1
そ の 他	7,506	100.5
合 計	557,999	111.0

- (注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

地域別販売実績

当連結会計年度における地域別販売実績の状況は、次のとおりであります。

地 域	期末店舗数(店)	売上高(百万円)	前年同期比(%)
中 部 地 区	19 (11)	6,535	227.1
関 西 地 区	109 (23)	59,174	133.6
中 国 地 区	150 (19)	83,686	113.6
四 国 地 区	106 (8)	65,184	108.9
九 州 地 区	528 (24)	343,418	106.6
合 計	912 (85)	557,999	111.0

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 期末店舗数欄の()内の数値は、前連結会計年度末に対する増減数であります。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって採用している重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりであります。これらの見積りについては、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、見積りには不確実性が伴い、実際の結果と異なる場合があります。

当連結会計年度の経営成績の分析

売上高は、積極的な新規出店に加えて「毎日安い(エブリデイ・ロー・プライス)」政策を忠実に実行することで伸張を図りました。その結果、医薬品部門で前年同期比11.1%増加し85,772百万円、化粧品部門で前年同期比10.3%増加し57,683百万円、雑貨部門で前年同期比8.6%増加し93,566百万円、一般食品部門で前年同期比12.1%増加し313,470百万円、その他部門で前年同期比0.5%増加し7,506百万円となり、全体で前年同期比11.0%増加し557,999百万円となりました。

売上総利益率は、付加価値商品の取り組み強化により利益獲得を図りましたが、第3四半期からの価格強化施策の結果、前連結会計年度より0.1ポイント低下し19.8%となりました。また、売上総利益は前年同期比10.3%増加し110,317百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、積極的な人員増強や処遇改善等により人件費が増加したこと、そして電気料金の高騰により水道光熱費が増加したこと等の要因により、前年同期比12.5%増加し87,568百万円となりました。この結果、営業利益は前年同期比2.3%増加し22,749百万円、経常利益は前年同期比2.7%増加し25,255百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前年度に熊本地震による被害に対する受取保険金1,073百万円の計上があったこと等により、前年同期比3.2%減少し17,633百万円となりました。

なお、総資産経常利益率につきましては10.6%となりました。

経営成績に重要な影響を与える要因について

詳細は、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載しております。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度末の流動資産は、新規借入を行わずに新規出店分の資金を賄ったこともあり現金及び預金は減少しましたが、商品、未収入金等の増加により、前連結会計年度から4,324百万円増加し、78,073百万円となりました。固定資産は、建物及び構築物、土地、工具、器具及び備品等の有形固定資産の取得等により前連結会計年度から20,592百万円増加し、172,535百万円となりました。

流動負債は、買掛金、未払費用、未払金、未払法人税等の増加、短期借入金、未払消費税等の減少により前連結会計年度から12,304百万円増加し、126,436百万円となりました。固定負債は、長期借入金、リース債務等の減少により前連結会計年度から3,223百万円減少し、15,283百万円となりました。

純資産合計は、利益剰余金が15,851百万円増加したこと等により108,888百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度から2.2ポイント上昇し、43.4%となりました。

なお、キャッシュ・フローの状況につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

経営者の問題意識と今後の方針について

ドラッグストア業界におきましては、激しい企業間競争の中で、上位企業を中心とした大量出店や合併・提携等が顕著であることから、今後は寡占化を伴いながら市場の拡大が続くものと思われま

す。そのような中で成長を続けるためには、他社と明確な差別化を行い消費者の支持を得ることが重要であると認識しております。当社グループは「小商圏型メガドラッグストア」という独自戦略で店舗網の拡大を図り、更なる飛躍を目指してまいります。それを実現するための課題は、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載しております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度（自平成29年6月1日至平成30年5月31日）の設備投資については、新規出店95店舗及び来期以降の新設店舗を含めた設備投資額（敷金及び保証金、建設協力金を含む）が、33,089百万円となりました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成30年5月31日現在

事業所名 (主な所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (名)
		建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	敷金及び 保証金、 建設協力金	その他	合計	
福井県 1店舗	店舗	282	1	- (-) [5,233.9]	14	36	25	360	5 (13)
岐阜県 5店舗	店舗	532	6	- (-) [22,329.3]	56	111	94	800	25 (64)
愛知県 2店舗	店舗	503	2	387 (2,978.1) [5,004.5]	25	13	45	978	17 (27)
三重県 11店舗	店舗	1,830	9	- (-) [53,002.9]	119	261	194	2,414	62 (155)
滋賀県 9店舗	店舗	2,066	6	- (-) [41,675.6]	96	92	157	2,419	50 (124)
京都府 8店舗	店舗	1,513	9	290 (4,972.9) [30,368.9]	78	128	133	2,154	42 (95)
大阪府 20店舗	店舗	3,671	4	- (-) [77,980.6]	103	411	184	4,375	114 (240)
兵庫県 53店舗	店舗	8,634	8	118 (10,005.5) [218,245.2]	277	570	410	10,021	237 (653)
奈良県 12店舗	店舗	2,741	8	129 (1,061.2) [60,569.5]	119	89	199	3,288	56 (157)
和歌山県 7店舗	店舗	1,672	5	- (-) [36,421.0]	79	61	130	1,950	36 (109)
鳥取県 12店舗	店舗	2,340	2	- (-) [63,620.1]	81	82	138	2,645	47 (144)
島根県 19店舗	店舗	3,437	5	476 (10,862.1) [75,465.1]	107	83	188	4,298	64 (237)
岡山県 30店舗	店舗	4,792	7	175 (5,524.4) [129,318.3]	165	360	288	5,790	114 (377)
広島県 35店舗	店舗	5,945	9	- (-) [147,630.4]	223	492	371	7,042	134 (451)

事業所名 (主な所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (名)
		建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	敷金及び 保証金、 建設協力金	その他	合計	
山口県 54店舗	店舗	6,012	5	383 (15,715.0) [229,566.3]	234	1,100	436	8,172	168 (795)
徳島県 26店舗	店舗	3,290	-	120 (4,421.5) [104,737.4]	82	292	161	3,947	83 (341)
香川県 31店舗	店舗	3,939	7	180 (2,407.5) [139,863.0]	157	639	306	5,231	116 (394)
愛媛県 39店舗	店舗	4,397	9	- (-) [169,081.5]	181	745	341	5,675	122 (520)
高知県 10店舗	店舗	1,393	1	- (-) [46,551.3]	206	291	73	1,965	43 (117)
福岡県 161店舗	店舗	16,901	19	1,682 (27,204.8) [641,430.0]	991	2,881	1,103	23,579	619 (2,152)
佐賀県 37店舗	店舗	3,579	1	602 (5,568.6) [156,202.3]	245	905	243	5,578	117 (478)
長崎県 38店舗	店舗	4,766	1	218 (8,651.8) [179,790.6]	223	426	238	5,874	135 (495)
熊本県 92店舗	店舗	8,754	5	1,211 (15,922.8) [366,520.6]	290	1,468	575	12,306	336 (1,155)
大分県 68店舗	店舗	7,324	6	552 (11,585.4) [263,744.8]	245	972	459	9,561	233 (851)
宮崎県 69店舗	店舗	5,243	6	902 (16,210.3) [249,550.4]	195	1,184	437	7,970	223 (876)
鹿児島県 63店舗	店舗	5,134	11	2,083 (28,113.5) [212,941.1]	235	1,155	450	9,070	231 (828)
広川常温物流 センター (福岡県八女郡 広川町)	物流 センター	188	1	1,074 (70,758.9) [-]	-	-	0	1,265	0 (0)
北九州常温物流 センター (北九州市小倉南区)	物流 センター	2,009	273	1,219 (56,967.0) [-]	-	-	4	3,506	1 (1)
南九州常温物流 センター (宮崎県都城市)	物流 センター	2,165	445	457 (52,809.0) [-]	-	-	15	3,083	12 (81)
佐賀常温物流 センター (佐賀県武雄市)	物流 センター	1,141	146	- (-) [29,684.0]	-	7	11	1,306	0 (0)

事業所名 (主な所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (名)
		建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	敷金及び 保証金、 建設協力金	その他	合計	
兵庫常温物流 センター (兵庫県三田市)	物流 センター	2,586	293	1,970 (72,270.1) [-]	-	-	17	4,867	14 (106)
本社他 (福岡市博多区)	会社統括 施設	175	39	4,147 (1,082.8) [1,436.6]	121	1,206	28	5,719	385 (106)

- (注) 1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
2 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定を含んでおりません。
3 土地の面積の[]内は外書きで、賃借中のものを記載しております。
4 従業員数は就業人員であり、また従業員数の()書は外数で、臨時雇用者の期末雇用人員(1日8時間換算)であります。

(2) 国内子会社

株式会社グリーンフラッシュ

平成30年5月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
		建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	リース 資産	敷金及び 保証金、 建設協力金	その他	合計	
福岡営業所 (福岡市博多区)	事務所	9	24 (335.4) [-]	-	-	1	35	1 (8)
宮崎営業所 (宮崎県宮崎市)	事務所	0	8 (388.1) [-]	-	0	0	10	1 (6)

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

平成30年5月31日現在における設備投資計画の主なものは次のとおりであります。

都道府県	設備の内容	投資予定額(百万円)		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
		総額	既支払額		着手	完了
岐阜県	店舗設備	1,483	392	自己資金	平成29年11月	平成30年11月
愛知県	店舗設備	702	201	自己資金	平成29年5月	平成30年8月
滋賀県	店舗設備	1,227	110	自己資金	平成30年3月	平成30年10月
京都府	店舗設備	672	109	自己資金	平成29年8月	平成30年11月
大阪府	店舗設備	850	29	自己資金	平成30年1月	平成30年11月
兵庫県	店舗設備	665	343	自己資金	平成30年3月	平成30年11月
和歌山県	店舗設備	337	320	自己資金	平成29年12月	平成30年6月
岡山県	店舗設備	900	530	自己資金	平成29年8月	平成30年11月
広島県	店舗設備	244	20	自己資金	平成30年5月	平成30年11月
山口県	店舗設備	1,098	385	自己資金	平成29年7月	平成30年11月
香川県	店舗設備	96	-	自己資金	平成30年9月	平成30年11月
愛媛県	店舗設備	651	328	自己資金	平成29年10月	平成30年11月
高知県	店舗設備	129	80	自己資金	平成30年5月	平成30年9月
福岡県	店舗設備	1,385	264	自己資金	平成30年2月	平成30年10月
佐賀県	店舗設備	289	84	自己資金	平成29年12月	平成30年7月
長崎県	店舗設備	620	141	自己資金	平成29年11月	平成30年9月
大分県	店舗設備	233	9	自己資金	平成30年4月	平成30年11月
宮崎県	店舗設備	1,681	837	自己資金	平成30年1月	平成30年11月
鹿児島県	店舗設備	496	2	自己資金	平成30年5月	平成30年11月

- (注) 1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
2 投資予定額には、敷金及び保証金、建設協力金を含めております。

(2) 重要な設備の除却等

平成30年5月31日現在において以下の設備の売却を計画しております。

都道府県	設備の内容	期末帳簿価額 (百万円)	売却等の 予定年月
京都府	店舗土地	290	平成30年7月

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	59,600,000
計	59,600,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年8月30日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,000,400	20,000,400	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	20,000,400	20,000,400		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成18年1月20日 (注)	10,000,200	20,000,400		4,178		4,610

(注) 1株につき2株の割合による株式分割によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年5月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	30	19	205	256	12	6,481	7,003	
所有株式数 (単元)	-	34,241	464	85,942	41,600	12	37,688	199,947	5,700
所有株式数 の割合(%)	-	17.12	0.23	42.98	20.81	0.01	18.85	100.00	

(注) 自己株式200,833株は、「個人その他」に2,008単元、「単元未満株式の状況」に33株含めております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
有限会社萬緑	福岡市博多区博多駅東2丁目8-35-204	7,659	38.68
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,275	6.44
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	1,045	5.28
宇野 之崇	福岡市早良区	928	4.69
公益財団法人余慶会	福岡市博多区博多駅東2丁目10-1 福岡ビルS館4階	750	3.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	667	3.37
宇野 愼里子	福岡市博多区	507	2.56
宇野 史泰	福岡市博多区	507	2.56
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	438	2.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会 社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	350	1.77
計	-	14,129	71.37

(注)1. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 926千株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 500千株

2. 平成30年4月10日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、有限会社ヒデフジは有限会社萬緑に商号変更されております。

3. 平成30年3月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、キャピタル・リサーチ・アンド・マネージメント・カンパニー及びその共同保有者であるキャピタル・ガーディアン・トラスト・カンパニー、キャピタル・インターナショナル・リミテッド、キャピタル・インターナショナル・インク、キャピタル・インターナショナル・エス・エイ・アール・エル、キャピタル・インターナショナル株式会社が平成30年2月28日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として平成30年5月31日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
キャピタル・リサーチ・アンド・マネージ メント・カンパニー	333 South Hope Street, Los Angeles, CA 90071, U.S.A.	403	2.02
キャピタル・ガーディアン・トラスト・カ ンパニー	333 South Hope Street, Los Angeles, California, U.S.A.	139	0.70
キャピタル・インターナショナル・リミ テッド	40 Grosvenor Place, London SW1X 7GG, England	188	0.94
キャピタル・インターナショナル・インク	11100 Santa Monica Boulevard, 15th Fl., Los Angeles, CA 90025, U.S.A.	32	0.16
キャピタル・インターナショナル・エス・ エイ・アール・エル	3 Place des Bergues, 1201 Geneva, Switzerland	23	0.12
キャピタル・インターナショナル株式会 社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号 明治安田生命ビル14階	348	1.74
計		1,135	5.68

4. 平成30年4月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、エフエムアール エルエルシー(FMR LLC)が平成30年4月13日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として平成30年5月31日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式数 の割合(%)
エフエムアール エルエルシー(FMR LLC)	245 Summer Street, Boston, Massachusetts 02210, USA	1,294	6.47

5. 上記のほか、当社所有の自己株式200千株があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,793,900	197,939	
単元未満株式	普通株式 5,700		1単元(100株)未満株式
発行済株式総数	20,000,400		
総株主の議決権		197,939	

(注) 単元未満株式欄の普通株式には、自己株式33株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社コスモス薬品	福岡市博多区博多駅東二 丁目10番1号 第一福岡ビルS館4階	200,800		200,800	1.00
計		200,800		200,800	1.00

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式				
その他 ()				
保有自己株式数	200,833		200,833	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年8月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、株主への安定的・継続的な配当による利益還元を実現すると同時に、経営体質強化のために十分な内部留保を確保し、適切な再投資にあてることを基本方針としております。

上記の方針に基づき、第36期（平成30年5月期）は、1株につき45円の間配当を実施するとともに、1株につき45円の期末普通配当を実施した結果、年間配当額は1株につき90円となり、当期の配当性向は10.1%となりました。内部留保金につきましては、主に新規店舗の出店資金に充当する予定であり、事業拡大のため有効に投資してまいりたいと考えております。

また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めており、剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

なお、第36期の剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年1月11日 取締役会	890	45.00
平成30年8月24日 定時株主総会	890	45.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第32期	第33期	第34期	第35期	第36期
決算年月	平成26年5月	平成27年5月	平成28年5月	平成29年5月	平成30年5月
最高(円)	13,690	19,610	20,200	24,180	26,780
最低(円)	9,000	10,420	13,290	18,430	18,520

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年12月	平成30年1月	2月	3月	4月	5月
最高(円)	25,890	23,690	20,530	22,140	24,700	25,190
最低(円)	23,340	18,540	18,520	19,260	20,310	23,000

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性9名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		宇野正晃	昭和22年2月6日生	昭和48年2月 宇野回天堂薬局個人開業 昭和57年9月 回天堂薬局(有)設立 代表取締役社長 昭和58年12月 (有)コスモス薬品(現当社)設立 代表取締役社長 平成2年2月 (有)なの花薬局設立 代表取締役社長 平成3年4月 (有)コスモス薬品を(株)コスモス薬品に組織変更 代表取締役社長 平成11年12月 (株)ドラッグコスモス(現(株)コスモス・コーポレーション)設立 代表取締役 平成16年4月 (株)グリーンフラッシュ設立 代表取締役 平成29年8月 当社代表取締役会長(現任)	(注)4	105
代表取締役 社長		横山英昭	昭和55年9月19日生	平成15年4月 当社入社 平成19年9月 当社店舗運営部エリア長 平成20年9月 当社店舗運営部上級エリア長 平成23年7月 当社店舗運営部長 平成28年8月 当社取締役店舗運営部長 平成29年8月 当社取締役営業本部長兼店舗運営部長 平成30年6月 当社代表取締役社長(現任)	(注)4	1
取締役	情報システム 部長	岩下昌博	昭和37年10月20日生	平成12年2月 当社入社 平成16年11月 当社情報管理・開発室長 平成20年2月 当社システム開発部副部長 平成22年1月 当社情報システム部長 平成22年12月 (株)コスモス・コーポレーション取締役(現任) 平成28年8月 当社取締役情報システム部長(現任)	(注)4	0
取締役	商品部長	竹森基	昭和40年8月10日生	平成6年4月 当社入社 平成17年3月 当社営業部商品課長 平成18年5月 当社商品部長 平成25年8月 当社取締役商品部長(現任)	(注)4	44
取締役	経営企画部長	柴田太	昭和46年10月24日生	平成10年11月 当社入社 平成16年9月 当社人事総務部広報課長 平成18年7月 当社経営企画部長 平成22年12月 (株)コスモス・コーポレーション取締役(現任) 平成24年6月 (株)グリーンフラッシュ代表取締役(現任) 平成24年8月 当社取締役経営企画部長 平成29年8月 当社代表取締役社長 平成30年6月 当社取締役経営企画部長(現任)	(注)4	15

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	商品開発部長	宇野之崇	昭和48年11月21日生	平成13年2月 ㈱コスモス・コーポレーション入社 平成17年4月 当社入社 平成17年4月 当社営業部営業企画課長 平成17年5月 ㈱コスモス・コーポレーション取締役 平成17年5月 ㈱グリーンフラッシュ取締役(現任) 平成21年11月 当社営業企画部長 平成22年12月 ㈱コスモス・コーポレーション代表取締役(現任) 平成24年8月 当社取締役営業企画部長 平成30年1月 当社取締役商品開発部長(現任)	(注)4	928
取締役 (常勤監査等委員)		牧野照也	昭和34年1月14日生	平成4年8月 当社入社 平成12年4月 当社総務部総務課長 平成14年9月 当社内部監査室長 平成17年8月 当社常勤監査役 平成17年11月 ㈱コスモス・コーポレーション監査役(現任) 平成17年11月 ㈱グリーンフラッシュ監査役(現任) 平成27年8月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)5	33
取締役 (監査等委員)		木野哲男	昭和18年10月25日生	昭和37年4月 熊本国税局入局 平成13年7月 鹿児島税務署長 平成14年9月 木野哲男税理士事務所所長(現任) 平成15年6月 ㈱アステム 監査役 平成17年8月 当社監査役 平成27年8月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)5	-
取締役 (監査等委員)		植田正男	昭和26年5月15日生	昭和55年4月 福岡県弁護士会 弁護士登録 平成2年9月 植田正男法律事務所所長 平成17年8月 当社監査役 平成23年4月 福岡県弁護士会弁護士業務委員会委員(現任) 平成27年8月 当社取締役(監査等委員)(現任) 平成28年8月 法律事務所徳賢 共同代表(現任)	(注)5	-
計						1,127

- (注) 1 取締役宇野之崇は、代表取締役会長宇野正晃の長男であります。
- 2 木野哲男氏及び植田正男氏は、社外取締役であります。
なお、当社は木野哲男氏及び植田正男氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
- 3 当社は監査等委員会設置会社であります。委員会の体制は、次のとおりであります。
委員長 牧野照也、委員 木野哲男、委員 植田正男
- 4 平成30年8月24日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
- 5 平成29年8月25日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

- 6 当社は、監査等委員である取締役が法令に定める員数を欠くことになる場合に備え、補欠の監査等委員である取締役1名をあらかじめ選任しております。
 補欠の監査等委員である取締役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (千株)
永原 豪	昭和47年4月13日生	平成13年10月	福岡県弁護士会 弁護士登録	-
		平成13年10月	徳永・松崎・斉藤法律事務所 入所	
		平成20年4月	徳永・松崎・斉藤法律事務所 パートナー 弁護士	
		平成20年12月	日本乾溜工業㈱ 社外監査役(現任)	
		平成28年1月	徳永・松崎・斉藤法律事務所 代表弁護士 (現任)	
		平成28年3月	福岡県建築審査会委員(現任)	

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

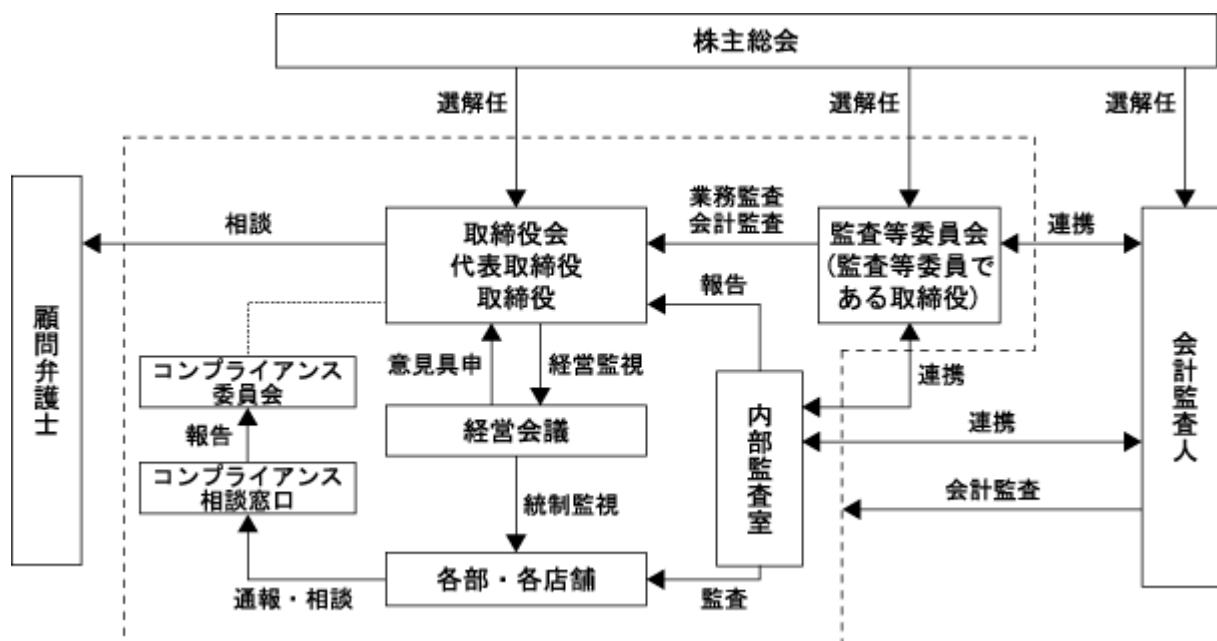
企業統治の体制

当社は、平成27年8月21日開催の第33期定時株主総会決議に基づき、同日付で監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行しております。

当社の取締役会は、業務に精通し、高い専門知識を有する取締役6名と監査等委員である取締役3名（うち2名は社外取締役）で構成され、経営の最高意思決定機関として重要事項を決定するとともに、各取締役の職務執行を監督する機能を有しております。取締役会は、定例取締役会として毎月1回程度開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。

経営会議は毎週開催し、代表取締役を含む関係役員ならびに各部門の部門長から構成され、取締役会への上程議案等の事前検討を行い、経営意思決定の迅速化の役割を果たしております。

当社の監査等委員会について、監査等委員である取締役は、社外取締役2名を含む取締役3名で構成されております。監査等委員会は、公正かつ客観的な監査を行うことを目的に毎月1回程度開催しております。また、監査等委員である取締役は、取締役会に出席して取締役の業務執行を監査するとともに、会計監査人との相互連携により、監査の実効性の充実に努めております。なお、社外取締役である植田正男氏が弁護士資格を有しており法律面における専門家として主としてコンプライアンス等の視点で、木野哲男氏が税理士の資格を有しており税務および会計に関する専門的な立場で経営の監視機能を担っております。また、社外取締役以外の監査等委員である取締役は、当社内部の業務に精通し、会社経営全般において取締役の職務執行を監査しております。



当該企業統治の体制を採用する理由

監査等委員会を設置し、監査等委員である取締役に取締役会における議決権を付与することで、取締役会の監査・監督機能及びコーポレート・ガバナンスを強化し、さらなる企業価値の向上を図るために当該企業統治の体制を採用しております。

その他企業統治に関する事項

イ．内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムの整備の状況は、以下のとおりであります。

a．コンプライアンスについて

当社は、コンプライアンス体制の確立と推進が、社会からの信頼を得るための不可欠な要件であるとの認識に立ち、取締役及び使用人が法令・定款及び社会規範を遵守した行動をとるための企業行動指針を制定しております。

当社の各部門の日常業務に関する法令・定款の遵守状況のチェックは内部監査室が内部監査規程に基づき実施し、取締役の職務執行状況の法令・定款への適合状況については監査等委員会が法令及び監査等委員監査規程に基づき監査を実施しております。さらに、コンプライアンス委員会規程を制定し、コンプライアンス体制の推進を組織的かつ永続的に運営するための常設の機関として、管理部門管掌取締役を委員長とし、社外弁護士・常勤監査等委員及び内部監査室長から構成されるコンプライアンス委員会を設置しております。

これに関連し、内部通報制度といたしまして、コンプライアンスに関する当社グループ共通の専門窓口を設置し、法令違反等に関する相談や通報を受け付ける体制を構築しております。

b．情報管理体制について

取締役の職務執行に係る情報は、法令のほか、文書管理規程及び情報管理・秘密保持規程に従って、書面または電磁的方法により作成・保存するものとし、作成・保存された情報は必要に応じて、取締役、監査等委員及び会計監査人等が常時閲覧できることとしております。取締役の職務執行に係る情報の作成・保存及び管理体制については、監査等委員会の監査を受けております。

c．会計監査人の内部統制に関する事項について

会計監査人は、内部統制報告書について内部統制監査を行っており、監査結果は速やかに経営者へ報告されます。改善すべき事項が生じた場合は直ちに各部署へ指示され、早急に改善策を検討し、実施される体制を構築しております。

d．反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況について

当社は、企業行動指針において反社会的勢力への関与禁止を定めており、反社会的勢力との関係を完全に遮断し、取引や資金提供等を一切行わないこととしております。

また、平素から反社会的勢力の不当要求に備え、総務部を対応統括部署として警察・暴力追放運動推進センター・弁護士等の外部専門機関と、情報交換や各種研修への参加等により緊密な連携関係を構築しております。

なお、反社会的勢力からの不当要求があった場合、不当要求には決して応じず、警察等の外部専門機関と連携を行い組織として法的対応を行います。

ロ．当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、子会社管理規程に基づき、当社子会社の取締役等から職務執行に係る事項の報告を受けるなど、適切な経営管理を行っております。また、子会社のコンプライアンス体制に関しては、コンプライアンス委員会規程及びコンプライアンス相談窓口取扱規程に従い役職員による相談窓口を設置し、当社グループとして一体的にコンプライアンス推進体制を構築しております。

さらに、当社の内部監査室が内部監査計画に従って定期的の子会社の監査を実施するとともに、当社の常勤監査等委員が子会社の監査役を兼任することにより、業務の適正を確保する体制を構築しております。

ハ．リスク管理体制の整備の状況

当社は業務運営に係るすべてのリスクについて適切に管理・対応できる体制として、代表取締役社長をリスク管理に関する統括責任者とし、全社的なリスクを管理・統括するものとし、対応部署においては必要に応じてマニュアルを制定し、所属する従業員に対する研修活動等を通じてリスク管理の徹底を図ることとしております。

また、コンプライアンスに関するリスクに対しては、役職員のためのコンプライアンス相談窓口を設置しております。

内部監査及び監査等委員監査

内部監査室は3名の専従体制とし、臨店監査・本部監査を実施するほか、監査等委員の監査の補佐を行っており、内部統制の充実に努めております。

監査等委員は、内部統制システムを活用した監査を実施するとともに取締役会をはじめとして社内で開催される重要な会議に出席するほか、必要に応じて業務執行部門（子会社を含む）から事業の報告を受けるなど、当社の財産の状況に関する調査の実施を通して、各取締役並びに業務執行部門に対する監督・監査機能を果たしております。

内部監査室、監査等委員会、会計監査人の相互連携につきましては、監査等委員は必要に応じて内部監査室に対し報告を求め、店舗監査の同行や特定事項の調査を依頼するなど緊密な連携を維持し、内部監査担当者とともに会計監査人の監査結果報告を受けるほか、定期的に会計監査人との意見交換を行う等の相互連携を行っております。

これらにより、トップマネジメントに対するチェック機能を果たす運営体制の構築に努めております。

なお、監査等委員である木野哲男氏は税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

社外取締役の状況

当社の社外取締役は2名で、いずれも監査等委員であります。

当社が選任している社外取締役につきましては、当社との人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係がなく独立性が確保されていることから、一般株主との利益相反が生じるおそれがないと判断しております。

社外取締役である木野哲男氏は、木野哲男税理士事務所の所長を兼務しており、また、社外取締役である植田正男氏は、法律事務所徳賢の共同代表を兼務しておりますが、いずれも当社との間に取引関係はありません。なお、当該社外取締役2名は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

なお、社外取締役である木野哲男氏は税理士の資格を有しており、財務および会計に関する専門的見識に基づき、客観的・中立的な立場から監査等委員としての職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。そして社外取締役である植田正男氏は弁護士資格を有しており、弁護士としての専門的知識と豊富な経験に基づき、客観的・中立的な立場から監査等委員としての職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。

また、当社と各社外取締役の間では、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額であります。

当社では社外取締役を選任するための独立性に関する基準を明確な形で定めておりませんが、財務及び会計・法律・経営等の専門的な知見を有し、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役を選任することを基本としております。

役員報酬等

イ．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役(監査等委員を 除く。) (社外取締役を除く。)	113	113	-	-	-	7
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く。)	8	8	-	-	-	1
社外役員	7	7	-	-	-	2

(注)上記の取締役(監査等委員を除く)の員数には平成30年1月18日付で辞任した取締役1名を含めてお
ります。

ロ．提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ．使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の員数(名)	内容
44	6	給与及び賞与

二．役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役(監査等委員である取締役を除く)の報酬等については、平成27年8月21日開催の第33期定時株主
総会において決議された年間報酬限度額(年額240百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない))の範囲
で決定し、各取締役の報酬額は、世間水準、会社業績、従業員給与等とのバランスを考慮し、取締役会決議
により決定することとしております。

監査等委員である取締役の報酬等については、平成27年8月21日開催の第33期定時株主総会において決議
された年間報酬限度額(年額20百万円以内)の範囲内で決定し、各監査等委員である取締役の報酬額は、監
査等委員会の協議により決定することとしております。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計

銘柄数 6 銘柄
貸借対照表計上額の合計額 5 百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ツルハホールディングス	100	1	当社が属する業界及び同業他社の情報収集
(株)サンドラッグ	100	0	当社が属する業界及び同業他社の情報収集
(株)クリエイトSDホールディングス	100	0	当社が属する業界及び同業他社の情報収集
(株)カワチ薬品	100	0	当社が属する業界及び同業他社の情報収集
スギホールディングス(株)	100	0	当社が属する業界及び同業他社の情報収集

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ツルハホールディングス	100	1	当社が属する業界及び同業他社の情報収集
(株)サンドラッグ	100	0	当社が属する業界及び同業他社の情報収集
(株)クリエイトSDホールディングス	100	0	当社が属する業界及び同業他社の情報収集
(株)カワチ薬品	100	0	当社が属する業界及び同業他社の情報収集
スギホールディングス(株)	100	0	当社が属する業界及び同業他社の情報収集

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

会計監査につきましては、有限責任監査法人トーマツを会計監査人として選任し、各期末、四半期末毎に会計監査を受けております。

イ．業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名

有限責任監査法人トーマツ	指定有限責任社員・業務執行社員	竹之内 高司
有限責任監査法人トーマツ	指定有限責任社員・業務執行社員	中野 宏治

ロ．会計監査業務に関わる補助者の構成

公認会計士	14名
その他	12名

(注)その他は、公認会計士試験合格者、システム監査担当者等であります。

責任限定契約の内容の概要

当社は、各社外取締役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令の範囲内としております。なお、当該責任限定が認められるのは、取締役（業務執行取締役等である者を除く）が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ．自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等による自己株式の取得を行うことができる旨を定款に定めております。これは、自己株式の取得を取締役会の権限とすることにより、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を目的とするものであります。

ロ．取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、同法第423条第1項に定める取締役（取締役であった者を含む）の責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

ハ．中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年11月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

取締役の定数及び取締役選任の決議要件

当社の取締役（監査等委員である者を除く）は10名以内、監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議について、監査等委員である取締役とそれ以外の取締役とを区別して、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び当該選任決議は累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	30		30	
連結子会社				
計	30		30	

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の事業規模の観点から合理的な監査日数等を勘案のうえ、会計監査人の報酬を決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年6月1日から平成30年5月31日まで)及び事業年度(平成29年6月1日から平成30年5月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等の行う研修への参加や会計専門誌の定期購読等を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,728	21,668
売掛金	22	91
商品	39,891	48,594
貯蔵品	147	155
前払費用	1,387	1,653
繰延税金資産	713	748
未収入金	3,365	4,536
その他	492	625
流動資産合計	73,749	78,073
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	132,384	153,429
減価償却累計額	27,953	34,448
建物及び構築物（純額）	104,430	118,981
機械装置及び運搬具	1,977	2,346
減価償却累計額	725	982
機械装置及び運搬具（純額）	1,251	1,364
工具、器具及び備品	16,847	20,416
減価償却累計額	10,309	12,937
工具、器具及び備品（純額）	6,538	7,478
土地	15,762	18,417
リース資産	9,286	9,944
減価償却累計額	4,228	4,980
リース資産（純額）	5,058	4,963
建設仮勘定	1,408	2,770
有形固定資産合計	134,450	153,976
無形固定資産		
その他	215	295
無形固定資産合計	215	295
投資その他の資産		
投資有価証券	4	5
繰延税金資産	264	420
建設協力金	3,609	3,821
敷金及び保証金	11,800	12,330
その他	1,597	1,684
投資その他の資産合計	17,276	18,262
固定資産合計	151,942	172,535
資産合計	225,691	250,609

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	91,735	105,062
短期借入金	4,486	3,199
リース債務	1,784	1,830
未払金	5,704	6,146
未払費用	3,681	4,258
未払法人税等	4,116	4,239
未払消費税等	1,734	830
店舗閉鎖損失引当金	93	64
その他	795	803
流動負債合計	114,132	126,436
固定負債		
長期借入金	11,747	8,548
リース債務	3,757	3,624
退職給付に係る負債	680	835
資産除去債務	1,516	1,552
その他	804	723
固定負債合計	18,506	15,283
負債合計	132,638	141,720
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,178	4,178
資本剰余金	4,610	4,610
利益剰余金	84,575	100,426
自己株式	238	238
株主資本合計	93,125	108,977
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	1
退職給付に係る調整累計額	74	90
その他の包括利益累計額合計	72	88
純資産合計	93,053	108,888
負債純資産合計	225,691	250,609

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成28年6月1日 至平成29年5月31日)	当連結会計年度 (自平成29年6月1日 至平成30年5月31日)
売上高	502,732	557,999
売上原価	402,688	447,681
売上総利益	100,044	110,317
販売費及び一般管理費	¹ 77,806	¹ 87,568
営業利益	22,237	22,749
営業外収益		
受取利息	85	78
受取手数料	615	672
不動産賃貸料	1,483	1,432
固定資産受贈益	310	301
その他	747	772
営業外収益合計	3,243	3,257
営業外費用		
支払利息	98	88
不動産賃貸原価	755	587
その他	34	75
営業外費用合計	889	751
経常利益	24,591	25,255
特別利益		
受取保険金	² 1,073	-
受取補償金	³ 278	³ 3
補助金収入	324	85
特別利益合計	1,676	89
特別損失		
固定資産除却損	⁴ 28	⁴ 31
災害による損失	⁵ 207	-
店舗閉鎖損失	201	79
店舗閉鎖損失引当金繰入額	93	64
特別損失合計	530	176
税金等調整前当期純利益	25,737	25,167
法人税、住民税及び事業税	7,688	7,718
法人税等調整額	166	184
法人税等合計	7,522	7,534
当期純利益	18,215	17,633
親会社株主に帰属する当期純利益	18,215	17,633

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
当期純利益	18,215	17,633
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	0
退職給付に係る調整額	46	16
その他の包括利益合計	1 45	1 15
包括利益	18,260	17,617
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	18,260	17,617

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	4,178	4,610	67,745	237	76,297	2	120	117	76,179
当期変動額									
剰余金の配当			1,385		1,385				1,385
親会社株主に帰属する 当期純利益			18,215		18,215				18,215
自己株式の取得				0	0				0
株主資本以外の項目 の当期変動額 (純額)						1	46	45	45
当期変動額合計	-	-	16,829	0	16,828	1	46	45	16,873
当期末残高	4,178	4,610	84,575	238	93,125	1	74	72	93,053

当連結会計年度(自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	4,178	4,610	84,575	238	93,125	1	74	72	93,053
当期変動額									
剰余金の配当			1,781		1,781				1,781
親会社株主に帰属する 当期純利益			17,633		17,633				17,633
自己株式の取得					-				-
株主資本以外の項目 の当期変動額 (純額)						0	16	15	15
当期変動額合計	-	-	15,851	-	15,851	0	16	15	15,835
当期末残高	4,178	4,610	100,426	238	108,977	1	90	88	108,888

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	25,737	25,167
減価償却費	10,710	11,885
退職給付に係る負債の増減額 (は減少)	123	130
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (は減少)	93	64
受取利息及び受取配当金	85	78
支払利息	98	88
災害による損失	207	-
補助金収入	324	85
受取保険金	1,073	-
受取補償金	278	3
固定資産除却損	28	31
店舗閉鎖損失	201	79
売上債権の増減額 (は増加)	5	68
たな卸資産の増減額 (は増加)	1,824	8,710
未収入金の増減額 (は増加)	331	1,208
仕入債務の増減額 (は減少)	9,263	13,326
その他	2,405	274
小計	44,957	40,893
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	98	88
法人税等の支払額	8,680	8,300
災害損失の支払額	527	-
保険金の受取額	1,087	-
補償金の受取額	199	82
営業活動によるキャッシュ・フロー	36,938	32,586
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	28,667	29,451
有形固定資産の売却による収入	538	186
建設協力金の支払による支出	313	576
建設協力金の回収による収入	372	400
敷金及び保証金の差入による支出	791	870
敷金及び保証金の回収による収入	494	564
補助金の受取額	328	43
その他	366	754
投資活動によるキャッシュ・フロー	28,404	30,458
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	4,951	4,486
自己株式の取得による支出	0	-
ファイナンス・リース債務の返済による支出	1,750	1,919
配当金の支払額	1,385	1,781
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,088	8,188
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	445	6,060
現金及び現金同等物の期首残高	27,282	27,728
現金及び現金同等物の期末残高	1 27,728	1 21,668

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

当社の子会社は株式会社グリーンフラッシュ及び株式会社コスモス・コーポレーションであり、当該会社を連結しております。

2 持分法の適用に関する事項

非連結子会社及び関連会社はないため、該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

(イ) 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

(ロ) 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

たな卸資産

(イ) 商品

売価還元法による原価法(値下額及び値下取消額を除外した売価還元の原価率を適用)を採用しております。

(ロ) 貯蔵品

最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 2年～47年

機械装置及び運搬具 2年～17年

工具、器具及び備品 3年～20年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

店舗閉鎖損失引当金

店舗の閉鎖に伴い発生する損失に備えるため、店舗閉鎖関連損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金の利息

ヘッジ方針

当社は、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップは特例処理によっているため、ヘッジの有効性の評価を省略しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引出可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資であります。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 平成30年3月30日）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日）

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年5月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

- 1 当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行16行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
当座貸越極度額	30,500百万円	35,500百万円
借入実行残高	- 百万円	- 百万円
差引額	30,500百万円	35,500百万円

(連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
広告宣伝費	1,815百万円	1,836百万円
役員報酬	118百万円	129百万円
給料及び賞与	32,826百万円	37,558百万円
退職給付費用	148百万円	160百万円
法定福利費	3,042百万円	3,641百万円
水道光熱費	6,764百万円	7,897百万円
減価償却費	9,709百万円	10,888百万円
地代家賃	12,579百万円	13,716百万円

- 2 前連結会計年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

受取保険金は、平成28年4月に発生した「平成28年熊本地震」に伴う店舗設備及び商品被害等に係るものであります。

- 3 前連結会計年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

受取補償金は、収用に伴う店舗移転補償金等であります。

当連結会計年度(自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)

受取補償金は、収用に伴う店舗造作物の移転補償金等であります。

- 4 固定資産除却損は、器具備品等の除却によるものであります。

- 5 災害による損失は平成28年4月に発生した「平成28年熊本地震」による損失を計上しており、その内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
復旧工事・修繕費用	187百万円
その他	19百万円
計	207百万円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	0百万円	0百万円
組替調整額	1百万円	- 百万円
税効果調整前	1百万円	0百万円
税効果額	0百万円	0百万円
その他有価証券評価差額金	1百万円	0百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	35百万円	49百万円
組替調整額	31百万円	26百万円
税効果調整前	66百万円	23百万円
税効果額	20百万円	7百万円
退職給付に係る調整額	46百万円	16百万円
その他の包括利益合計	45百万円	15百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	20,000,400	-	-	20,000,400
自己株式				
普通株式	200,802	31	-	200,833

(注) 普通株式の自己株式の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年8月25日 定時株主総会	普通株式	692	35.00	平成28年5月31日	平成28年8月26日
平成29年1月11日 取締役会	普通株式	692	35.00	平成28年11月30日	平成29年2月14日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年8月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	890	45.00	平成29年5月31日	平成29年8月28日

当連結会計年度(自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	20,000,400	-	-	20,000,400
自己株式				
普通株式	200,833	-	-	200,833

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年8月25日 定時株主総会	普通株式	890	45.00	平成29年5月31日	平成29年8月28日
平成30年1月11日 取締役会	普通株式	890	45.00	平成29年11月30日	平成30年2月14日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年8月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	890	45.00	平成30年5月31日	平成30年8月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
現金及び預金勘定	27,728百万円	21,668百万円
預入期間が3ヶ月を超える預金等	- 百万円	- 百万円
現金及び現金同等物	27,728百万円	21,668百万円

2 重要な非資金取引の内容

前連結会計年度(自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)

- (1) 当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、それぞれ1,684百万円であります。

当連結会計年度(自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)

- (1) 当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額は、それぞれ1,828百万円であります。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

- ・有形固定資産

主として店舗におけるPOSレジ、什器備品、冷蔵・冷凍ショーケース等(工具、器具及び備品)であります。

- ・無形固定資産

主として本社における会計システム等のソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち、解約不能のものに係る未経過リース料

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (平成30年 5月31日)
1年内	1,134	953
1年超	2,370	2,131
合計	3,504	3,084

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については銀行等金融機関からの借入による方針であります。また、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

建設協力金、敷金及び保証金については、主に店舗の賃貸借契約によるものであり、取引先企業等の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、1年以内の支払期日であります。

短期借入金、長期借入金(原則として10年以内)は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (5) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

建設協力金、敷金及び保証金については、取引先ごとの期日及び残高の管理を行うとともに、財務状況等の悪化による貸倒懸念の早期把握や軽減を図っております。

買掛金、借入金については、各部署からの報告に基づき財務経理部が適時に資金計画を作成・更新することなどにより、流動性リスクを管理しております。

デリバティブ取引については、資金調達に関する市場リスク管理方針に基づき実施しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

主な金融商品の連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(平成29年5月31日)

	連結貸借対照表 計上額(1) (百万円)	時価(1) (百万円)	差 額 (百万円)
(1)現金及び預金	27,728	27,728	-
(2)建設協力金	3,609	3,912	302
(3)敷金及び保証金	11,800	11,271	529
資産計	43,138	42,911	226
(1)買掛金	(91,735)	(91,735)	-
(2)長期借入金(2)	(16,234)	(16,313)	79
負債計	(107,970)	(108,049)	79
デリバティブ取引			

(1) 負債に計上されるものについては、()で示しております。

(2) 1年以内返済予定の長期借入金を含めております。

当連結会計年度(平成30年5月31日)

	連結貸借対照表 計上額(1) (百万円)	時価(1) (百万円)	差 額 (百万円)
(1)現金及び預金	21,668	21,668	-
(2)建設協力金	3,821	4,125	304
(3)敷金及び保証金	12,330	11,756	574
資産計	37,820	37,550	269
(1)買掛金	(105,062)	(105,062)	-
(2)長期借入金(2)	(11,747)	(11,806)	59
負債計	(116,809)	(116,868)	59
デリバティブ取引			

(1) 負債に計上されるものについては、()で示しております。

(2) 1年以内返済予定の長期借入金を含めております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 建設協力金並びに(3) 敷金及び保証金

これらの時価については、将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標により割り引いて算定する方法によっております。

負債

(1) 買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金

長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

金利スワップの特例処理の対象とされた変動金利の長期借入金(下記(3)参照)については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。

(3) デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該借入金の時価に含めて記載しております。(上記(2)参照。)

(注2) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年5月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	20,402	-	-	-
建設協力金	374	1,405	1,264	960
敷金及び保証金	510	1,948	2,913	6,817
合計	21,287	3,353	4,177	7,778

当連結会計年度(平成30年5月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	15,997	-	-	-
建設協力金	381	1,470	1,228	1,117
敷金及び保証金	644	2,360	3,182	6,531
合計	17,023	3,831	4,410	7,648

(注3) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年5月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	4,486	3,199	1,486	1,486	1,486	4,088

当連結会計年度(平成30年5月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	3,199	1,486	1,486	1,486	1,288	2,800

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

前連結会計年度(平成29年5月31日)

ヘッジ会計 の方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	5,830	5,128	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成30年5月31日)

ヘッジ会計 の方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップ の特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	5,128	4,426	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

退職給付制度については、確定給付型の制度として退職金規程に基づく退職一時金制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
退職給付債務の期首残高	623 百万円	680 百万円
勤務費用	116 百万円	130 百万円
利息費用	0 百万円	3 百万円
数理計算上の差異の発生額	35 百万円	49 百万円
退職給付の支払い額	24 百万円	29 百万円
退職給付債務の期末残高	680 百万円	835 百万円

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (平成30年 5月31日)
非積立型制度の退職給付債務	680 百万円	835 百万円
連結貸借対照表に計上された負債	680 百万円	835 百万円
退職給付に係る負債	680 百万円	835 百万円
連結貸借対照表に計上された負債	680 百万円	835 百万円

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
勤務費用	116 百万円	130 百万円
利息費用	0 百万円	3 百万円
数理計算上の差異の費用処理額	31 百万円	26 百万円
確定給付制度に係る退職給付費用	148 百万円	160 百万円

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
数理計算上の差異	66 百万円	23 百万円
合計	66 百万円	23 百万円

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (平成30年 5月31日)
未認識数理計算上の差異	106 百万円	129 百万円
合計	106 百万円	129 百万円

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の基礎(加重平均で表しております。)

	前連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
割引率	0.4%	0.2%

予想昇給率については、平成27年11月30日を基準日として算定した年齢別昇給指数を使用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
繰延税金資産		
未払賞与	253百万円	282百万円
未払事業税	249百万円	243百万円
未払事業所税	56百万円	62百万円
退職給付に係る負債	207百万円	254百万円
長期未払役員退職慰労金	93百万円	92百万円
減損損失	7百万円	7百万円
資産除去債務	461百万円	472百万円
その他	305百万円	334百万円
計	1,635百万円	1,750百万円
繰延税金負債		
建設協力金	71百万円	57百万円
差入保証金	9百万円	9百万円
固定資産圧縮積立金	373百万円	320百万円
資産除去債務に対応する除去費用	202百万円	192百万円
その他有価証券評価差額金	0百万円	0百万円
計	657百万円	580百万円
繰延税金資産の純額	978百万円	1,169百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度及び当連結会計年度において、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

ドラッグストアにおける店舗の土地・建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から10年～30年と見積り、割引率は0.00816%～2.036%を使用して資産除去債務を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	(自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
期首残高	1,459百万円	1,516百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	28百万円	31百万円
時の経過による調整額	28百万円	29百万円
資産除去債務の履行による減少額	- 百万円	10百万円
その他の増減額(は減少)	- 百万円	12百万円
期末残高	1,516百万円	1,552百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、医薬品・化粧品等の小売業という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、医薬品・化粧品等の小売業という単一セグメントであるため、記載を省略してあります。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

当社グループは在外子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

当社グループは在外子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、医薬品・化粧品等の小売業という単一セグメントであるため、記載を省略してあります。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

当社グループは在外子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

当社グループは在外子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
1株当たり純資産額 4,699円76銭	1株当たり純資産額 5,499円55銭
1株当たり当期純利益 919円99銭	1株当たり当期純利益 890円59銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	18,215	17,633
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	18,215	17,633
普通株式の期中平均株式数(株)	19,799,572	19,799,567

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	93,053	108,888
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	93,053	108,888
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	19,799,567	19,799,567

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	
1年以内に返済予定の長期借入金	4,486	3,199	0.32	
1年以内に返済予定のリース債務	1,784	1,830	0.91	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	11,747	8,548	0.32	平成31年6月～平成37年9月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,757	3,624	0.91	平成31年6月～平成47年10月
合計	21,775	17,202		

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
2 「1年以内に返済予定の長期借入金」は、連結貸借対照表上「短期借入金」として表示しております。
3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は、以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	1,486	1,486	1,486	1,288
リース債務	1,319	923	609	304

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	138,726	270,835	410,771	557,999
税金等調整前四半期 (当期)純利益 (百万円)	6,834	11,507	17,560	25,167
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	4,638	7,781	11,874	17,633
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	234.29	393.00	599.73	890.59

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益 (円)	234.29	158.71	206.72	290.86

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 5月31日)	当事業年度 (平成30年 5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,357	21,297
売掛金	22	91
商品	39,891	48,594
貯蔵品	145	153
前払費用	1,386	1,652
繰延税金資産	712	747
未収入金	2 3,380	2 4,552
その他	492	625
流動資産合計	73,389	77,715
固定資産		
有形固定資産		
建物	94,514	107,605
構築物	9,905	11,365
機械及び装置	1,251	1,340
車両運搬具	-	23
工具、器具及び備品	6,530	7,466
土地	15,729	18,385
リース資産	5,058	4,963
建設仮勘定	1,408	2,770
有形固定資産合計	134,399	153,920
無形固定資産		
ソフトウェア	184	277
その他	30	18
無形固定資産合計	215	295
投資その他の資産		
投資有価証券	4	5
関係会社株式	60	60
長期前払費用	1,596	1,684
繰延税金資産	231	380
建設協力金	3,609	3,821
敷金及び保証金	11,799	12,329
その他	0	0
投資その他の資産合計	17,302	18,281
固定資産合計	151,917	172,497
資産合計	225,306	250,213

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 5月31日)	当事業年度 (平成30年 5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	91,735	105,061
1年内返済予定の長期借入金	4,486	3,199
リース債務	1,784	1,830
未払金	5,662	6,095
未払費用	² 3,715	² 4,300
未払法人税等	4,110	4,240
未払消費税等	1,729	827
預り金	342	394
前受収益	185	149
店舗閉鎖損失引当金	93	64
その他	265	258
流動負債合計	114,111	126,422
固定負債		
長期借入金	11,747	8,548
リース債務	3,757	3,624
退職給付引当金	572	703
資産除去債務	1,516	1,552
その他	804	723
固定負債合計	18,398	15,152
負債合計	132,509	141,574
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,178	4,178
資本剰余金		
資本準備金	4,610	4,610
資本剰余金合計	4,610	4,610
利益剰余金		
利益準備金	7	7
その他利益剰余金		
別途積立金	300	300
固定資産圧縮積立金	850	732
繰越利益剰余金	83,087	99,046
利益剰余金合計	84,245	100,085
自己株式	238	238
株主資本合計	92,795	108,636
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1	1
評価・換算差額等合計	1	1
純資産合計	92,797	108,638
負債純資産合計	225,306	250,213

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当事業年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
売上高	502,730	557,997
売上原価	402,686	447,680
売上総利益	100,043	110,317
販売費及び一般管理費	1、 2 77,841	1、 2 87,593
営業利益	22,202	22,723
営業外収益		
受取利息	85	78
受取手数料	615	672
不動産賃貸料	2 1,485	2 1,435
固定資産受贈益	310	301
その他	2 746	2 776
営業外収益合計	3,244	3,264
営業外費用		
支払利息	98	88
不動産賃貸原価	755	587
その他	32	74
営業外費用合計	887	751
経常利益	24,559	25,237
特別利益		
受取保険金	3 1,073	-
受取補償金	4 278	4 3
補助金収入	324	85
特別利益合計	1,676	89
特別損失		
固定資産除却損	28	31
災害による損失	5 207	-
店舗閉鎖損失	201	79
店舗閉鎖損失引当金繰入額	93	64
特別損失合計	530	176
税引前当期純利益	25,706	25,149
法人税、住民税及び事業税	7,677	7,711
法人税等調整額	165	184
法人税等合計	7,511	7,527
当期純利益	18,194	17,622

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					別途積立金	固定資産 圧縮積立金
当期首残高	4,178	4,610	4,610	7	300	842
当期変動額						
剰余金の配当						
固定資産圧縮積立金の積立						153
固定資産圧縮積立金の取崩						145
当期純利益						
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	-	7
当期末残高	4,178	4,610	4,610	7	300	850

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計					
	繰越利益剰余金						
当期首残高	66,286	67,436	237	75,987	2	2	75,990
当期変動額							
剰余金の配当	1,385	1,385		1,385			1,385
固定資産圧縮積立金の積立	153	-		-			-
固定資産圧縮積立金の取崩	145	-		-			-
当期純利益	18,194	18,194		18,194			18,194
自己株式の取得			0	0			0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					1	1	1
当期変動額合計	16,801	16,808	0	16,808	1	1	16,807
当期末残高	83,087	84,245	238	92,795	1	1	92,797

当事業年度(自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					別途積立金	固定資産 圧縮積立金
当期首残高	4,178	4,610	4,610	7	300	850
当期変動額						
剰余金の配当						
固定資産圧縮積立金の積立						
固定資産圧縮積立金の取崩						118
当期純利益						
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	-	118
当期末残高	4,178	4,610	4,610	7	300	732

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計					
	繰越利益剰余金						
当期首残高	83,087	84,245	238	92,795	1	1	92,797
当期変動額							
剰余金の配当	1,781	1,781		1,781			1,781
固定資産圧縮積立金の積立		-		-			-
固定資産圧縮積立金の取崩	118	-		-			-
当期純利益	17,622	17,622		17,622			17,622
自己株式の取得				-			-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					0	0	0
当期変動額合計	15,958	15,840	-	15,840	0	0	15,841
当期末残高	99,046	100,085	238	108,636	1	1	108,638

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

(イ) 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

(ロ) 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) たな卸資産

商品

売価還元法による原価法（値下額及び値下取消額を除外した売価還元率の原価率を適用）を採用しております。

貯蔵品

最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 11年～47年

構築物 2年～30年

機械及び装置 7年～17年

車両運搬具 2年～6年

工具、器具及び備品 3年～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

3 引当金の計上基準

(1) 店舗閉鎖損失引当金

店舗の閉鎖に伴い発生する損失に備えるため、店舗閉鎖関連損失見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（7年）により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

4 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...金利スワップ

ヘッジ対象...借入金の利息

(3) ヘッジ方針

当社は、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップは特例処理によっているため、ヘッジの有効性の評価を省略しております。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

- 1 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行16行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当事業年度 (平成30年5月31日)
当座貸越極度額	30,500百万円	35,500百万円
借入実行残高	- 百万円	- 百万円
差引額	30,500百万円	35,500百万円

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当事業年度 (平成30年5月31日)
短期金銭債権	14百万円	16百万円
短期金銭債務	43百万円	52百万円

(損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当事業年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
広告宣伝費	1,815百万円	1,836百万円
役員報酬	118百万円	129百万円
給料及び賞与	32,669百万円	37,394百万円
退職給付費用	148百万円	160百万円
法定福利費	3,017百万円	3,615百万円
水道光熱費	6,763百万円	7,896百万円
減価償却費	9,705百万円	10,883百万円
地代家賃	12,577百万円	13,713百万円
販売費に属する費用のおおよその割合	91.1%	91.8%
一般管理費に属する費用のおおよその割合	8.9%	8.2%

2 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当事業年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
営業取引による取引高	497百万円	527百万円
営業取引による取引以外の取引高 その他	4百万円	4百万円

3 前事業年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

受取保険金は、平成28年4月に発生した「平成28年熊本地震」に伴う店舗設備及び商品被害等に係るものであります。

4 前事業年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

受取補償金は、収用に伴う店舗移転補償金等であります。

当事業年度(自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)

受取補償金は、収用に伴う店舗造作物の移転補償金等であります。

5 災害による損失は平成28年4月に発生した「平成28年熊本地震」による損失を計上しており、その内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
復旧工事・修繕費用	187百万円
その他	19百万円
計	207百万円

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

関係会社株式(貸借対照表計上額60百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)

関係会社株式(貸借対照表計上額60百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当事業年度 (平成30年5月31日)
繰延税金資産		
未払賞与	253百万円	281百万円
未払事業税	248百万円	243百万円
未払事業所税	56百万円	62百万円
退職給付引当金	174百万円	214百万円
長期未払役員退職慰労金	93百万円	92百万円
減損損失	7百万円	7百万円
資産除去債務	461百万円	472百万円
その他	305百万円	334百万円
計	1,601百万円	1,708百万円
繰延税金負債		
建設協力金	71百万円	57百万円
差入保証金	9百万円	9百万円
固定資産圧縮積立金	373百万円	320百万円
資産除去債務に対応する除去費用	202百万円	192百万円
その他有価証券評価差額金	0百万円	0百万円
計	657百万円	580百万円
繰延税金資産の純額	943百万円	1,128百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度において、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	94,514	18,393	106	5,194	107,605	25,891
	構築物	9,905	2,956	3	1,493	11,365	8,549
	機械及び装置	1,251	336	-	248	1,340	974
	車輛運搬具	-	31	-	8	23	8
	工具、器具及び備品	6,530	3,696	8	2,752	7,466	12,921
	土地	15,729	2,849	194	-	18,385	-
	リース資産	5,058	1,828	131	1,792	4,963	4,980
	建設仮勘定	1,408	26,766	25,403	-	2,770	-
	計	134,399	56,859	25,848	11,489	153,920	53,325
無形固定資産	ソフトウェア	184	216	-	124	277	1,724
	その他	30	-	11	0	18	2
	計	215	216	11	125	295	1,727

(注) 1. 当期増加額の内訳は、次のとおりであります。

建物	当期新規出店95店舗分	17,035百万円
	不動産リース契約満了に伴う建物買取り分	620百万円
	既存店分	706百万円
構築物	当期新規出店86店舗分	2,839百万円
工具、器具及び備品	当期新規出店95店舗分	2,418百万円
土地	来期以降出店予定店舗分	2,700百万円
建設仮勘定	当期新規出店95店舗分	22,919百万円
	来期以降出店予定店舗分	3,842百万円

2. 当期減少額の内訳は、次のとおりであります。

土地	所有土地売却（京泊店他4店舗分）	194百万円
建設仮勘定	当期新規出店95店舗分	24,298百万円

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
店舗閉鎖損失引当金	93	64	93	64

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	6月1日から5月31日まで
定時株主総会	8月中
基準日	5月31日
剰余金の配当の基準日	11月30日、5月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として、別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とします。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に掲載いたします。なお、電子公告は当社のホームページに掲載することとし、そのアドレスは以下のとおりであります。 (http://www.cosmospc.co.jp/koukoku.html)
株主に対する特典	株主優待制度 毎年5月31日および11月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主様のうち、100株以上保有の株主様に対し、優待品を贈呈いたします。 <継続保有期間1年未満> 「株主様お買物優待券(5,000円分)」または「全国共通おこめ券(10kg分)」を贈呈いたします。1年で2回の実施となりますので、年間では「株主様お買物優待券(10,000円分)」または「全国共通おこめ券(20kg分)」を贈呈いたします。 <継続保有期間1年以上> 「株主様お買物優待券(7,500円分)」または「全国共通おこめ券(15kg分)」を贈呈いたします。1年で2回の実施となりますので、年間では「株主様お買物優待券(15,000円分)」または「全国共通おこめ券(30kg分)」を贈呈いたします。 「株主様お買物優待券」は、当社店舗において、商品をお買上げの際にご利用いただけます。また、ご利用期間は、発行日より1年間となります。なお、一部の商品において、ご利用できない場合がございます。

- (注) 1. 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。
2. 継続保有期間1年以上とは、基準日時点において同一株主番号で1年以上連続して株主名簿に記載または記録されていることといたします。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第35期(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)平成29年8月30日福岡財務支局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第35期(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)平成29年8月30日福岡財務支局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

事業年度 第36期第1四半期(自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日)平成29年10月13日福岡財務支局長に提出

事業年度 第36期第2四半期(自 平成29年9月1日 至 平成29年11月30日)平成30年1月12日福岡財務支局長に提出

事業年度 第36期第3四半期(自 平成29年12月1日 至 平成30年2月28日)平成30年4月16日福岡財務支局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書 平成29年8月31日福岡財務支局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（提出会社の代表取締役の異動）の規定に基づく臨時報告書 平成30年5月15日福岡財務支局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年8月27日

株式会社コスモス薬品
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 竹之内 高 司
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 中 野 宏 治

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社コスモス薬品の平成29年6月1日から平成30年5月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社コスモス薬品及び連結子会社の平成30年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社コスモス薬品の平成30年5月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社コスモス薬品が平成30年5月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年 8月27日

株式会社コスモス薬品
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 竹之内 高 司
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 中 野 宏 治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社コスモス薬品の平成29年6月1日から平成30年5月31日までの第36期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社コスモス薬品の平成30年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。